

一 般 質 問

Q こども園開園後の課題はないのか

藤 田 貢

一、乳幼児保育の推進について、幼稚園の預かり保育など子育て支援は少しずつその内容が充実し、平成20年度より鬼鹿地区は幼児遊びクラブが、小平地区は小平町社会福祉協議会がそれぞれ運営し、1歳児から幼稚園入園前の幼児を対象に認可外保育所として開設されていた。

本年4月からは鬼鹿幼稚園との併設で「おにしかこども園」が開園し、子育て支援の推進が図られているが、開園から2か月が経過し、様々な問題や課題があると思うが、どのように対応しているか、また、今後開園が見込まれる仮称「小平地区こども園」に対する考えを伺う。

A こども園・幼稚園が一体となって対応し、運営を行う

町 長 関 次 雄

一、10名の定員の中、預かり状況は長期保育5名と不定期であるが1・2名の一時保育を行っている。

日常保育の中では、環境に慣れず泣き止まない、落ち着かないなどあるが、早朝始業時、保育士1名の場合には園長・幼稚園教諭がそれらを補い、こども園・幼稚園が一体となって対応し、運営を行っているところである。

今後の「小平地区こども園」の取り組みについては、国は具体的な制度設計を議論しているが、必要財源を国、自治体、事業主体がどのように負担するか決まっていないなど、積み残した課題もあり、政府案を見極める必要がある。方向性を探り、関係各課と協議・連携を図り検討したい。

Q 愛生園における防災・避難対策は

工 藤 雄 壽

一、この度の東日本大震災を受け、当町の防災計画は根底から見直さなければならぬと考えるが、特に社会的弱者と言われる愛生園（特養）入所者の対策・対応はどのように考えているか、また施設には「自然災害対策要綱」というものがあるが、地震・津波災害について特に明記されていないようであり、避難計画や避難訓練の実施はどのようになっていくか伺う。

A 町の防災計画と合わせてマニュアルを総点検し、対応できる状況にしたい

町 長 関 次 雄

一、北海道のハザードマップが秋には策定されることとなっており、町としてマニュアルを総点検し、対応できる状況にしたい。

昨年までの改修工事で耐震対策は終了しているが、津波震災マニュアルが欠けているのが現状であり、地域防災計画と合わせ問題を精査し、避難場所・避難経路等を計画に盛り込みたい。

愛生園園長 久保田 秀 生

火災訓練については年2回計画的に実施しているが、10月に行う今年2度目の訓練においては地震による移動訓練等も実施したいと考えている。